



議会だより

第26号

みなべ

平成23年8月1日

発行 みなべ町議会

編集 議会広報特別委員会

〒645-0002 和歌山県みなべ町芝742

TEL 0739-72-1334

FAX 0739-72-1335



梅収穫体験ツアー

5月定例会

議案審議..... P2～3

一般質問(5名が登壇)..... P4～8

常任委員会活動報告..... P9

議 案 審 議



工事が始まった南部中学校

校舎耐震工事

平成23年第2回定例会は、5月23日に開かれ、31日に閉会しました。専決処分の承認については、平成22年度一般会計補正予算の他2件があり、議案については、南部中学校校舎耐震改修工事請負契約の締結の他7件を審議しました。その主なものを報告いたします。

Q

南部中学校校舎耐震改修工事の内容と工事日程は。

A

工事内容につきましては、管理特別教室棟の耐震補強工事、それ

と校舎棟の改修工事です。工期は、平成23年6月1日より、同年11月30日までです。

Q

南部中学校・上南部中学校の耐震改修工事の工程について。

A

工事工程については、町や業者に、学校関係者も入って打ち合わせをしていきたいと思っています。

Q

南海・東南海地震で津波が起きた場合、今の校舎の場所で安全なのか。

A

まず、子供の安全対策が第一だと思

ます。今は国の採択基準、震度6を想定した指針で行っています。

Q

外階段を設置すること、耐震補強になると思うが。

A

外階段によって、外部からの侵入ができるため、他市町でも少ないです。

なお、外階段の必要性については、今後検討させていただきます。

地震津波対策

Q

子供たちを、地震や津波から守るために、旧町・旧村の小中学校の統合を考え、高い所へ建てるべきと思うが。

A

学校統合という大きな問題はあるが、新しい工夫を求めたり、意見を聞いたりしている間にも、地震が起こる可能性があると考えられます。

今、子供の学ぶ環境を地震から守る環境づくりと、国が示している基準の範囲内で大丈夫だという耐震補強を行ってから、学校統合を考えるべきだと思っています。

防災行政無線

Q

南海・東南海地震で発生する津波により、庁舎に被害があった場合は、災害対策本部を生涯学習センターに設置し、そこから町内全域へ放送できるように考えているようですが、無線装置はどこに設置するのか。

A

生涯学習センターの3階に設置を考えています。

詳細な打ち合わせはまだですが、大きなスペースを必要としない無線装置ですので、研修室などの部屋に設置したいと考えています。



防災無線室（生涯学習センター）

海拔表示板

Q 枚数100枚という限定のなかで、表示板枚数の配分は。

A 自主防災連絡協議会を通して、各区長のご意見をいただき、必要な箇所と枚数を申請していただきますと考えています。申請が集まったなかで、設置場所の重要度を決めていきたいと思っています。

町道埴田堺線の工事

Q 町道埴田堺線の残り工区数について。

A 平成23年度で、今の工事が終わると5工区の工事が終わり、残り2工区ということです。

Q 埴田の薬師寺近くの法面と、あと残りはどこか。また、改修工事は



町道埴田堺線

中学校公共下水道への接続

Q 南部中学校の公共下水道へのつながり込み、工事費1,660万円も要するの

A 学校は、屋外配水管のつながり込み、数基の継ポンプ槽の設置、既設排水管の撤去も含まれています。

県住宅新築資金等貸付金回収管理組合

Q 規約変更で、議員定数が増となった理由。

A 組合市町が8市町あり、今回は、全市町の首長が議員とし、管理者や副管理者を除く市町の首長が議員となりました。

管理者は御坊市長、副管理者は湯浅町長です。組合議会議長は広川町長、副議長は新宮市長、監査委員が、みなべ町長です。

議員は、和歌山市長・上富田町長・串本町長の3名ということになります。

火葬場

Q 昭和45年にできた施設なので、新しい施設を建てる構想はあるのか。

A 色々調査しましたが、今回は改修のみで、当面は、新しくする考えはありません。



南部中学校

一般質問

一般質問は5月26日に5人の議員が行いました。(質問者から提出された原稿どおり掲載しています)



田中昭彦 議員

9月実施の全町一斉防災訓練の内容を見直ししては



南部湾の津波対策は

質問

今回の東日本大震災の被害状況を見て、当町が毎年行っている防災訓練を見直す必要があるのではないかと思います。

大震災が起きると、多大な人的・物的被害が予想されるなか、訓練により、どれだけ被災できるのか、また被災を避け得るものかなければならないと思うからです。

例えば、今回、釜石市の全14の小・中学校生が、当日欠席していた生徒を除いて、ほぼ100%助かったとあります。

これは、群馬大学の教授が釜石市の教育委員会の要請で、8年前から津波に対しては、小学生と共に自分で判断し、高台への避難する訓練を、年に数回行った結果とのことでした。

また、あの東京ディズニーランドでは、最悪の状態を想定した避難訓練を、年間に180日も行っており、今回もマニュアルどおりに行った結果、お客に満足してもらったとあります。

地震はいつ起きるかわかりませんので、四季・天候・昼夜などあらゆる状況を想定して、年に何回か訓練を実施してみるべきだと思っております。

町長

昨年10月に発足した、自主防災会連絡協議会を中心に、和歌山大学の教授の指導のもとモデル地区を設定したバザードマップの作成に取り組んでいます。

また、7月には協議会総会を開き、防災訓練の打ち合わせをしますが、今年の防災訓練は今までの防災訓練ではなく、高台への避難訓練になるのではないかと考えています。

そのため、海拔5m・10m・20mと色分けした5,000分の1のバザードマップ的なものを作成し、各地区の避難場所を想定して

いただく予定です。

さらに、8月までに、各地区の自主防災会から訓練内容の報告をしていただき、自主防災会連絡協議会と事務局で調整する予定となっています。

各学校や保育所・幼稚園は、ずっと避難訓練を行っていますので、町民の皆様方にも四季を通じて、様々な状況を想定した訓練の実施ができないかを、検討したいと思っています。

他の質問

●今年からの新学習指導要領により、授業に新聞の活用を取り入れられたが、その現状は。

●駅前駐車場の利用状況を調査してみては。

を質問しました



下村 勤 議員

東日本大震災の 教訓から



避難場所の 再検討と地区割りを

質問

紀伊半島沖から遠州灘にかけての海域で周期的に発生する海溝型地震の規模は、マグニチュード8.0前後に達する巨大地震で、約100年から150年周期で発生している東南海地震や、四国沖で発生する南海地震、浜名湖沖から駿河湾にかけて起こる東海地震など、連動型地震となったケースが過去に複数回あると言われています。

この3つの地震が、一度に、いつ起こっても不思議でないと言われている今日、3月11日の東日本大震災の教訓を今一度、真剣に考え、取り組まなくてはなりません。

避難場所の見直しや避難先の地区割り、避難経路など山岡部も含めて、再検討をしていただきたい。

町長

町内の避難場所の再検討ならびに、避難先の地区割りについては、現在準備を進めています。

7月中に2回目の協議会総会を開催し、8月上旬までに各地区からの自主防災会より報告を受けます。

そのなかで、地区により避難場所が集中するかと思えますので、それらの地区と自主防災連絡協議会、そこに役場も入り、調整していきたいと考えています。

7月には、区長会を開催する予定ですので、防災訓練の方法や避難場所などについての協議を進めていきたいと思っています。

震災から子供を守る

合同訓練と車イスの配備



質問

南部幼稚園・南部小・中学校の避難訓練は、3者による合同することはできないか。

岩手県釜石市内の全小・中学校の計14校の児童と生徒約3,000人の避難率が100%に近く、中学生が小学校低学年の児童の手を引いて、避難したそうです。

また、児童生徒すべてが健常者ではないと思いますので、車イスを各学校の玄関ホールに配備することができないか、お聞きしたい。

教育長

南部幼稚園は、南部小学校への避難訓練を、南部小学校は学校3階への避難訓練を、南部中学校は、南部小学校と猪の山への避難訓練を実施

しています。

生徒数などの内訳については、南部幼稚園の園児数93名に対して職員は7名、南部小学校の児童数374名に対して職員が26名、南部中学校の生徒数231名に対して職員が23名です。

これだけの生徒数を職員だけでは、なかなか逃げ切ることは非常に難しいと思います。

限られた時間内に、児童や生徒などを安全に避難させるには、更に検討をする必要性があると思います。

今後は、合同訓練や各学校への車イス配置を含め、検討していきたいと思っています。

将来起こりうる 南海・東南海地震対策について



中井重雄 議員

質問

東日本を襲った戦後最悪の大震災は、大地震後の大津波が、各地の所によつては、10mを超すなど記録的な被害をもたらしました。

そこで、近い将来に起きると懸念される南海・東南海地震対策について、自然災害は完全に防ぐことはできなくても、建物の耐震化など災害に強いまちづくりを進めることで、被害を最小限度に抑えることができます。



また、小学校や中学校の耐震対策をしても、津波が起きれば、どのように対応するのか言うことです。

津波が起きれば、一たまりもないと言うことを考えて、避難対策を考えなければならぬと思います。

今後の予算では、海拔表示板を設置すると言っていますが、町全体で何箇所にも枚数が多い設置するのか。

早急に設置していただきたい。

町長

津波対策であり、耐震につきましても、色々な指数とか指針などがありますけれど、国のほうでは、また津波に対する指針がありません。

平米当たり何トンかの圧力がかかるのか、速度に比例して圧力もかなりかかるのではないかと思います。今、自主防災会でお願いをいたしました和歌山大学の教授には、何回も相談させていただき、対策を講じていきたいと思っています。

ています。

津波表示板については、今考えているのは、100枚設置すると言つことと、表示板の大きさについては、検討

させていただきます。いずれにしても、まず、皆さま方の意識を高めていただく部分を優先して進めていきたいと思っています。

トンネルの 照明について

質問

町道沼川線と学校のトンネルは、学校への通学路として使われています。

以前にもトンネル内の照明については、工事をしたと聞いていますが、今でも非常に暗く、小学生の通学には危険だと思います。

通学路として使われているトンネル内の照明を、もっと明るくしていただきたい。

町長

土井地区にある高城のトンネルについては、漏電により片側11台、すべて消えていますので、修繕についての準備中です。

なお、明るさなどについては、蛍光灯の清掃も一緒にを行います。



沼川線のトンネル

で、ある程度の明るさに回復するのではないかと思います。今回の蛍光灯の取り替えについては、早急に行つ予定で進めていきます。



山中邦夫 議員

ため池を避難場所に

質問

テレビの映像で観た東日本大震災の津波の凄さ、恐ろしさは今も忘れることができません。

それは、防災に対する考え方を根本から変えるものでもあり、津波については逃げるしかないのではという想いがします。

それで、わが町でも避難計画の見直しがされ、その見直しで避難先となるのが、

町内では猪の山方面が多くなっています。

しかし、猪の山には避難場所が用意されていません。みんなが、猪の山へ避難したら、どうなるのか心配します。

そこで、「五反池」を埋め立て、避難場所にしては、水利権の問題はありますが、ぜひ、やるべきだと思います、お聞きしたい。

町長

津波につきましては、避難をしていただくことが、第一かと思えます。

そこで、避難場所が猪の山と言うことで重なる場合は、各地区と相談して調整が必要だと思っています。

それから、五反池につきましては、地域防災計画の中で、「ため池の防災計画」として、警戒を要する「ため池」となっています。

それで、水利権のこともありますので、いきなり埋めると言うのではなく、若干小さくしながらという考えで、検討していきたいと思っています。

それと、猪の山に一時的な避難場所とした場合、どんな施設が必要か、仮設トイレなどについても同時に検討を加えていきたいと思っています。

質問

全てを埋め立てるのではなく、半分でも埋め立てると、相当広い避難場所が確保できると思っています。

取りあえず、埋め立てること、そこへの道路を造るべき



五反池への進入路

町長

だと思えます。既設道路から50m延長すればできると思うので、やはり避難場所はここですと、はっきりさせた方がよいのではないかと思います、お聞きしたい。

ため池を避難場所にするというご提言をいただきましたので、検討させていただきたいと思っています。

東吉田地区の皆さんの避難場所として、池を埋め立てたということもありますので、水利権者の皆さんと相談させていただきながら、前向きに検討させていただきたいと思っています。

ごみ焼却炉の稼働停止に伴う 受け入れ先などについて



森坂義明 議員

質問

現在、山内地区内に設置されている、ごみ焼却炉の稼働は最終遅くとも、平成26年の3月末日までとし、その後は町独自で町内で場所を探し、建設するというのではなく、どこかの自治体か事務組合、または民間に受け入れ先を求めていくと言う当局の説明内容でありました。あれから1年6ヶ月が経過したが、現在どのようなところまで進展しているのか、お聞きしたい。

町長

平成26年3月末日までに、現施設の廃止を行うものでありますが、田辺広域で新しく中間処理施設（焼却場）を建



ごみ焼却場

質問

設するのが平成32年で、これについては変わってなく、そこに至るまでの間のみなべ町のごみは、田辺広域、あるいは御坊広域にお願いし、それがダメな場合は、民間業者にということ です。

現在、準備を進めている田辺広域や御坊広域の場合は、そのままパッカー車でいけるのですが、民間（遠方）になると積み替えが必要になることから検討を行っているところです。

町長

ごみの受け入れ予定先に対して、町長や課長らが直接行かれ話し合いなどされているのですか。

町長

最終停止日が、平成26年3月末日ですが、1日も早く受け入れてくれるところを決めていただき、住民が安心できるよう、今後もし生懸命頑張っていただきますようにお願いしたい。

現在の状況ですが、田辺広域は田辺市長に、御坊広域の関係は御坊市長、日高町長に、それぞれ直接お願いをしています。

また、民間業者については、副町長や担当課長が話を進めてきました。それから受け入れ先を決めてほしい、これはそのとおりで、1日も早く、皆さま方に安心していただきたいと思います。



最終処分場

最終処分場 浸出水処理工事の 事前説明会について

質問

「最終処分場浸出水処理施設工事請負契約の締結」については、先の定例会で承認済みですが、計画・工事などについての現場周辺の土地所有者などへの事前説明会は、どのように考えられているのか、お聞きしたい。

町長

地権者への事前説明会と言うことで、現在、業者において設計中ですが、現場に着手するまでの間の7月頃に、地元説明会を行う予定にしています。

常任委員会活動報告

産業建設常任委員会では、平成22年度に実施した事業や平成23年度に実施予定事業の現場視察と、梅の作柄状況調査を行いました。総務文教常任委員会では、橋本市立高野口学校給食センターの視察を行いました。各常任委員会の活動内容について、一部を報告いたします。

◎産業建設常任委員会

4月18日(月)

町内現地視察

平成22年度に事業が完了した千鹿浦集落道路や、現在も事業を行っている町道埴田堺線法面改修工事・東部配水池増改築工事・小倉谷地区農免道路整備工事、平成23年度より事業を行う堺川水門設置工事について、現地で担当課からの説明を聞き、現地の状況を視察しました。

各委員は、工事箇所の現地を把握することで、事業計画や工事の必要性を確かめるなど充実した内容の視察でもありました。



5月11日(水) 梅の作柄状況現地調査

今年の梅の着果状況について、うめ課の案内のもと、堺地区・埴田地区・山内地区・上南部地区・高城地区・清川地区・岩代地区の調査樹園地へ行き、調査を行いました。

昨年は、天候の影響による低温障害などで大きな被害を受けた樹園地もあり、委員会での着果平均指数は73%台でしたが、今年は前年のような被害もないように、梅の木が行う自然生理落果が、平年と比較して遅れているようでした。

なお、5月11日時点の委員会での作柄平均指数は90%台でした。



◎総務文教常任委員会

4月28日(木)

橋本市立高野口 学校給食センター

県内で唯一、2,000食の調理能力を持ち、また厨房設備などがオール電化となっている橋本市の高野口学校給食センターへ、教育委員会と視察しました。当センター長から、この給食センターでは高野口町内の1幼稚園、3小学校、1中学校の計1,400食を調理している説明と、調理の方法の取り組みを聞いてから、施設内の見学を行いました。

衛生面では、施設内は調理員の各作業工程の出入り



や調理器具などの衛生消毒が徹底化され、厨房では調理作業の効率化を図るために、室内空調温度の管理や※フルドライ方式が採用されていました。

また、調理器具や使用した皿などの容器類は、システム洗浄器や消毒・乾燥保管機を利用し、労務時間の短縮を図っていました。

調理面では、調理員の労力作業負担によるケガを減らすために、最新電気機器（IH炊飯器・IH釜・IHスチームオーブン・自動揚げ機）を利用することで、調理作業の向上と調理可能な品目が増えているとのことでした。

※床が乾いているので軽装な作業服で作業ができる。菌の発生を抑えることができる。



サークル紹介

高城俳句会



●発足

昭和11年7月

●現在

代表者 平 房躬
指導者 坂本 元
会員数 10名

●活動

第一・第三水曜日午後7時30分から、高城公民館で行っています。
館報や地方紙に掲載され、それが励みになっています。

埴田陶芸クラブ



●発足

平成6年

●現在

代表者 磯崎 孝子
指導者 佐々木 六和
会員数 7名

●活動

毎週月曜日に、磯崎宅にて、佐々木六和先生のご指導で、稽古に励んでいます。子供教室の手伝い、文化祭に向け、頑張っています。年3回ほど、本焼きをしています。

●一言（埴田陶芸クラブ）

先生の声かけで、埴田ファーズの婦人部として発足。色付けなどが出来るようになり、焼き上がりを楽しみます。みなさんのご入会をお待ちしています。

●一言（高城俳句会）

春と秋には、楽しく吟行会を行っています。
町内の方なら、気軽に誰でもご入会できるので、みんな待っています。

あとがき

田辺方面から帰路に向かう夕暮れの国道42号線。堺漁港を横目に、大きく右カーブを過ぎたとき、一瞬、目に映るのが、二子の磯から鹿島に目津崎といった風景に、一本の水辺線に沈みかけている夕日、一日の嫌なことを吹き飛ばしてくれそうな、心の和む素晴らしい夕暮れの一コマ。この美しい景色と自然をいつまでも大事に守りたいものです。ね。

（森）